



大阪公立大学
Osaka Metropolitan University



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY



転換期の社会に求められる力を培うための
産学連携型教育プログラム: QBIC

2024年度 **前期** 開講科目

キャリアと実践 Ⅱ

～問いの実践～

大阪大学 授業名「キャリアデザインと社会実装Ⅱ」

2024.4
第**1**期
スタート

これからの社会で生きるを思考を培う科目

本授業では、「解のない社会の『問い』をデザインする」をテーマに、

1. 事例を分析し、自らの視点で「問題」を再定義する
2. 「SDGsのその先にある社会」にむけた「問い」を多角的なミカタでデザインする
3. 「問い」から導かれる課題をビジネスとして解く

について、受講生チームと参画企業のメンターとの協働を通して実践的に学びます。

【2024年度参画予定企業】

一般社団法人 エッジソン・マネジメント協会、京セラ株式会社、パナソニック株式会社、
株式会社日立製作所、清水建設株式会社、関西電力株式会社、and more....

本件に関する問合せ先

大阪公立大学 国際基幹教育機構
高度人材育成推進センター

担当：市田（いちだ） h.ichida@omu.ac.jp



この授業は、大阪公立大学と大阪大学との協働開講科目です。
授業内では、両大学の受講生が混成チームを形成し、授業課題に取り組みます。



大阪公立大学
Osaka Metropolitan University



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

『解のない社会の「問い」をデザインする。』

「前例なき時代」「解のない社会」と言われるほど、これからの社会は様々な面において、過去に構築された枠組みでは捉えることができない新たな「問題」に直面しています。その「問題」は、世代によってもミカタ「捉え方」がことなることがあり、より複雑な社会が形成されるようになってきました。例えば、これまでの人口増をベースに描いてきた社会システムを、人口減の未来社会をどのように共創し、描き直すのか？このような未来社会に対する『問い』を突破していくには、これまでにない自分達の『考え方』や『ミカタ』が求められます。そのためには、多様な視点で複雑に絡み合う問題を再定義し、未来社会にむけた「問い」を共創から導き出すことが重要です。本授業では、大学や産業界の枠組み越えた学びの中で、これからの社会について考えます。

受講
対象

2~4年次

定員

30名※

大阪公立大学と大阪大学から
各15名の受講定員を予定

参画
企業

関西電力株式会社
株式会社日立製作所
清水建設株式会社
協力：（一社）エッジソン・マネジメント協会
※順不同、その他の参画企業は決定次第、順次掲載します。



スケジュール(全4回)

授業実施日時/場所は、事前確認をしてください。

1

4月20日(土) 9:30~17:30 会場：I-siteなんば（大阪公立大）
チームビルディング、事例紹介と分析 【課題 1~2】事例分析とチームでの問題検討

2

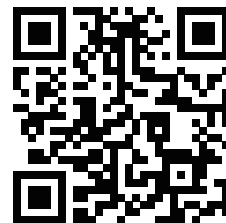
5月18日(土) 9:30~17:30 会場：豊中キャンパス（大阪大）
事例分析結果報告とフィードバック、未来社会に向けた問題検討【2~3】都市大阪に潜む問題を自ら&SDGsの視点で再定義

3

6月15日(土) 9:30~17:30 会場：I-siteなんば（大阪公立大）
中間報告（チームテーマ報告）・参加企業からのフィードバック
【3~4】再定義した問題に対する独創的な「問い」とビジネス的な視点で課題解決案を作成
※期間中、社会人メンターとのミーティング/フィードバックも実施予定

4

7月13日(土) 9:30~18:00 会場：中之島センター（大阪大）
最終報告、参加企業からのフィードバック、振り返り、総括



参加を検討している学生みなさまへ

まずは、事前説明・相談会にご参加下さい。
「どんな授業なのか?」「授業終了後の展開は?」
「参加方法 / 日程面で気になること」など、
受講にあたっての質問や不安な点に対して事前説明会では回答
します。この授業を通して社会の壁を感じつつ、参加する
仲間と共に、自らの成長や新たな可能性を感じましょう。
事前説明会については、上の QR コードから参加登録をお願い
します。（シラバスも事前に参照してください）



転換期の社会に求められる力を培うための
産学連繋型教育プログラム: QBIC

キャリアと実践 2 ～問いの実践～

この授業は、一般社団法人 エッジソン・マネジメント協会(<https://www.edgeson-management.jp>)
および、参画企業等とともに実施する科目です。



一般財団法人
三菱みらい育成財団

本事業は、三菱みらい育成財団 大学・NPO等が行う「21
世紀型教養教育プログラム」 カテゴリー4助成事業（2023
年度採択）の助成を受けて実施しています。

2024年度 受講生募集

転換期の社会に求められる力を培うための
産学連繋型教育プログラム:



Question-Based Innovation and Career education program for societal transition (キュービック)

「問いを立てる力」と「学び続ける力」を伸ばす

『キャリアと実践』



失敗すること、
考え直すことの
大切さを学べる場所

終わった後の
達成感が半端ない

この授業を
ひとことで
表現すると!

「問う」という
ことへの入り口

自由と成長

「キャリアと実践」で得た
知識・思考法・経験はこれ
から生きていく上で重要
なものになります! この
授業に興味を持つ方、他、
何か成し遂げたいと思う
方、何か変わりたいと思う
方、キャリアというものに
触れたい方には是非是非お
勧めします!!

とても大変な期間になると思
います。しかし、この期間は今
まで体験したことのないもの
になり、社会人メンターさんか
らの言葉はこれから生きてい
く中でとてもためになります。

先輩受講生からの
おすすめポイント!

自分で作る
ジェットコースター

烏兔匆匆

この授業を受講するにはそれなりの
覚悟があると思います。どのような
覚悟だとしても、主体的に学んでい
こうとする姿勢がとても大切です。
少しでも迷っているのならば、一歩
踏み出して受講してみてください!
この授業でしか得られない経験がた
くさんあります。

成長したいという意欲
がある人にはもってこ
いの授業です。きっと
最後には「楽しかった!」と言えるようにな
ります。社会に散らばっ
ている問題を自ら手に
とって考える力を、こ
こで磨きませんか。

しんどいけど、
きっと成長できる!

超忙しいけど
ハイリターン

最後までやり遂げて
こそその授業

単位は他の授業でも取れますが、
この授業でしか得られない学び
がたくさんあります。



QBICプログラム 2024年度スケジュール

※実施日程が変更になる場合があります。プログラムの詳細は、大学のシラバス等で確認をしてください。

自らの視点で社会の中の問題を再定義（問題発見）する

他者との学びあいを中心に「問い」を社会に対して実践する

01 問いの創出

主な対象：1～2年生

Step-up
プログラム

科目名

キャリアと実践1

第1回目	10月12日(土) ※
第2回目	11月16日(土) 午後
第3回目	12月26日(木) 午後
第4回目	2月7日(金) 午後
第5回目	2月8日(土) 午前

2月8日(土) 午後
大阪大学との交流プログラム実施

※＝10時30分～17時 午前＝9時00分～12時30分 午後＝13時～17時30分

02 問いの実践

主な対象：2年生

Jump-up
プログラム

科目名

キャリアと実践2

大阪大学との協働開講、合同チームを形成します。

第1回目	4月20日(土) 全日
第2回目	5月18日(土) 全日
第3回目	6月15日(土) 全日
第4回目	7月13日(土) 全日

全日＝9時30分～17時30分



授業アンケートより

Q

授業を受けたことで感じる成長を教えてください！

A

チームでの経験を経て、自分には何が得意で何が不得意かがわかった。

A

自分の意見を主張するだけでなく、チームを考えた言動により全体を円滑に回す力が得られた。

A

様々な困難があり、それに対応することを迫られ、乗り越えられた。

Q

メンターから学んだことを教えてください！

A

物事を抽象的に一般論として分かりやすく説明する重要性。

A

ビジネスで重要にされている考え方や視点。

A

まず何を「優先するか」という考え方。

Q

授業で印象に残っていることは？

A

私たち自身の考えがステレオタイプに囚われていることに気づいたこと。

A

授業に参加した学生の多様性。自分だけだと選ぶことがなかっただろうテーマに取り組む機会を得ることが出来た。

A

様々な視点をもったメンターの方々から指摘をたくさんもらえ刺激になった。

Q

授業を終えての満足度は？

A

将来に繋がる知識、考え方、経験が出来、満足している。

A

プロジェクトや意思決定などの練習をすることができて良かった。

A

成長には繋がったけど少し大変過ぎた。

Q

授業全体の感想は？

A

4回目のワークショップが終わったあとの達成感がとてつもなく大きかった。

A

授業の掲げる理想や自発的な行動に任せる授業スタイルが良かった。

A

本当に大変すぎた授業だったが、ただ席に座って講義を受けているだけでは得られないものを頂けたなと感じた。

A

普段の授業では決して得られない、質の高い問いを立てること、チームで社会問題について本気で考えるとてもよい機会だった。

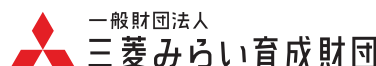
A

自分に何が足りていないとか、何が得意なのかなど、自分自身を知る機会でもあったと感じ、自己成長に繋がった。

※2023年「キャリアと実践1～問いの創出～」(大阪公立大学)の取り組みから

プログラム問い合わせ先

大阪公立大学 国際基幹教育機構／市田(いちだ) h.ichida@omu.ac.jp



本事業は、三菱みらい育成財団 大学・NPO等が行う「21世紀型教養教育プログラム」カテゴリー 4 助成事業（2023年度採択）の助成を受けて実施しています。